



登録に向け応援を 駐日大使の講演会

マルコ・ポーロの生誕地とされるクロアチアのドラゴ・シュタンブク駐日特命全権大使の講演会が3月14日、町民ら約200人が出席して平泉文化遺産センターで開かれました。

平泉国際交流協会の事業「もっと知りたいあの国第7章クロアチア」の一環。同協会の千葉敏明さん（5区）を同時通訳に、大使は母国の歴史や産業、文化などを紹介しながら『平泉の文化遺産』の価値が世界の人たちに理解してもらえるよう応援していきたい」と述べました。

昨年クロアチアを旅行した千葉和夫さん、勝子さん夫妻（13区）の報告会も行われました。

まちづくりの工夫が 第11回世界遺産講演会

第11回世界遺産講演会、21年度町内遺跡発掘調査報告会が3月13日、ホテル武蔵坊で開かれました。

約230人が参加。世界遺産講演会では、平泉の文化遺産世界遺産登録推薦書作成委員会委員で日本イコモス国内委員会委員長の西村幸夫東京大教授が「平泉の歴史をいかしたまちづくり」と題して講演。国内の景観形成の先進事例を紹介しながら「まちづくりは住民の少しの工夫で可能」と訴えました。

引き続き開かれた町内遺跡発掘調査報告会では、平泉文化遺産センター職員が、21年度に実施した中尊寺跡、無量光院跡、柳之御所遺跡の調査結果について発表しました。



整備の最終案示す 中尊寺通り懇談会

町が国の21年度事業を活用して中尊寺通り（県道平泉停車場中尊寺線）で実施した「連歌方式の景観まちづくり 中尊寺通りまちなみ整備」の最終住民懇談会が3月2日に12区、3日に2区と13区、4日に11区を対象に開かれました。

町が1月に開いた懇談会の結果を踏まえ最終案を示し、事業対象地域の模型を用いて説明しました。町は寄せられた意見を基に同案を調整し、まちなみ整備の方向性をまとめた冊子を対象地域に配布します。



消防自動車新たに 町消防団第8分団

町消防団第8分団（佐々木正分団長）への新しい消防自動車（小型動力ポンプ積載車）の引き渡し式が2月24日、消防団員ら15人が出席して役場で行われました。

購入後29年が経過した従来のポンプ車を更新したものの、式で消防自動車の引き渡しを受けた加藤京副分団長は「操作技術の習得に努め、地域の安全確保に全力を尽くしたい」と決意を述べました。



登録にふさわしいまちへ 13区住民有志が刈り払い

13区住民有志5人が3月14日、字花立地内の国道4号とJR東北本線間にある耕作放棄地約15㍍で雑木や雑草の刈り払いを行いました。

今夏に予定されるイコモスの現地調査に向けた自主的な環境整備活動。千葉正吾さんは「将来は耕して菜種をまきたい」と話しています。



監督らがトークイベント 「風のかたち」平泉上映会

映画「風のかたち 小児がんと仲間たちの10年」の上映会が2月28日、町内2会場で開かれ、伊勢真一監督と映画にかかわった細谷亮太聖路加国際病院副院長との対談が平泉文化遺産センターで行われました。2人は映画の制作過程を紹介しながら「生きる本質を知ることが大切」と訴えました。



人形を使い応急手当て学ぶ 協力隊らが普通救命講習会

応急手当ての普及啓発を図る普通救命講習会が3月6日、町消防団、町婦人消防協力隊を対象に町消防コミュニティセンターで開かれました。

約30人が参加。一関西消防署平泉分署員の指導の下、訓練用の人形を使いながら気道の確保や人工呼吸、AEDの使用方法などを学びました。



がん予防のあり方考える 女性の健康づくり講演会

町と町健康づくり推進協議会などが主催した「女性の健康づくり講演会」が3月7日、ホテル武蔵坊で開かれ、がん予防のあり方を考えました。

「がんと向き合う」と題して講演したタレントの向井亜紀さんは、がんへの対処で「病気に打ち勝つイメージを強く持つことが大切」と訴えました。